

# Nutrition Support Times

## 第24回静脈経腸栄養学会に参加して

第24回静脈経腸栄養学会が1/29-1/30に鹿児島で開催されました。

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、理学療法士など数多くの職種が関わりあっているためだと思いますが人と演題の多さには驚きました。

人に関しては鹿児島空港から市内に行くバスの運転手いわく“長渕剛のコンサート”以来の人の多さだと。

演題に関しては記念講演、要望演題201題 一般演題(口演265題 ポスター768題)各職種のパネルディスカッション、教育セミナーなどなど多彩なものでした。

当院も口頭演題(間接熱量計より測定した安静時エネルギー消費量と実際の栄養投与量の関係 臨床検査技術部 山城)とポスター演題3題(1、NST開始以降での開心術および胸部大動脈手術後患者にお

ける経管栄養管理の変化 東別府 チェアマン 2、急性期病院での嚥下障害への取り組み-嚥下回診を導入して リハビリテーション科 ST 常峰 3、急性期脳卒中疾患で嘔吐を繰り返す症例に対する栄養管理について 9w 徳田ナース)をもって参加しました。

発表会場は9会場6個所の建物で行われ、シャトルバスでの移動となっていたためなかなか順序良く発表を聞いて回ることが困難でした。

しかし、ランチョンセミナーで福岡県看護協会専門教育センター ET ナース 梶西先生の講演で“チーム医療・褥瘡ケア 実践 コメディカルの役割を担うために”に興味深く聴く事ができました。

要旨は毎日の仕事でどんなに些細なことでも分からないこと疑問に思うことは同僚、先輩などに聞く、それでも解決しないときは、それぞれの専門家に聞くことです。餅は餅屋

といいます。医師以外、薬剤師、栄養士、検査技師などです。専門家に聞くことがよりよい方法でしょう。それによって問題点を洗い出し、対処方法を考えたりすることにより自分が成長してゆくのです。“ほうれんそう”という言葉のあやで“報告”“連絡”“相談”を実践し、チームで患者さんのために一番良い方法を見つけていく、それがチーム医療です。という講演でした。判りやすく納得のいく楽しいお話でした。

学会に参加し刺激を受け活性化され、またやる気をおこさせてくれました。機会があれば是非参加してみてください。

残念だったのは、篤姫ゆかりの鹿児島もあいにくの雨で櫻島を全貌することができなかったことです。



臨床検査技術部  
山城



### 最先端の時代遅れ

当院のNSTはきっとメンバーの個々人としては恥ずかしくないレベルじゃないかと、学会発表などをみていると思えるのですが、全体をみるとなんとなく鳴かず飛ばず。チームとしては確立しているけれど、院内での存在感は薄い！そんな気がします。栄養療法を未だに考えずに医療をすすめる方も多く、医療の基礎と呼ばれる現在、最先端の病院に時代遅れを感じる矛盾はいつ消え去るのか？

### NCM 講演会予定

月日	内容	担当
2/26	感染と栄養について	若草第1病院 山中先生
3/26	腎臓と栄養について	田路先生

NSTカンファレンス・回診

毎週水曜日 pm1:00 ~

8北(861) NSTカンファレンスルーム

## NCM 講演会 — 肝臓と栄養 —

1月のNCM講演会は肝臓と栄養というテーマで東別府チェアマンと木本先生がスーパーバイザーとして講演していただきました。肝臓と栄養はとても関わりが深く、その段階によって栄養療法も工夫が必要になってきます。中でもC型肝炎などでは鉄制限が必須であり、肝硬変になればエネルギーの貯蔵ができなくなり分割食が求められ、就寝前の補食が推奨されています。Late evening snack(LES)と呼ばれる栄養療法がそれにあたります。また肝臓で合成されにくくなったアミノ酸に代わり、筋肉で代謝されるBCAA(分岐鎖アミノ酸)を使用することが大切で十分なBCAA投与で生存率も向上するという事です。当院では栄養療法の普及が遅れており、メジャーではありませんが栄養療法は重要な位置づけが一般にはされています。特にLESでは就寝前にBCAA経腸栄養剤を用いることが最もやりやすい方法で、最近は経腸栄養剤もフレーバーもいろいろ開発され飲みやすくなっています。また冷やしてみたり、ゼリーにしてみたりして摂取率もよくなっているようです。その他亜鉛の重要性も言われています。低栄養の肝機能の低下した患者さんはたくさんいるように思います。栄養療法を推進しましょう。